



医療ジャーナリスト

伊藤隼也が行く!

ニッポンの医療現場 第9回

人手不足解消の糸口となるか

新人教育で離職率低下を目指せ 看護師不足の現状と、新たな取り組み

白衣の天使、看護師。我々患者の前で常に優しく微笑み、仕事をこなす彼女たち(彼女)だが、その仕事は想像以上に過酷で、それ故に現場を去るケースも少なくない。今回は看護師不足にスポットを当て、その現状や新たな取り組みを紹介する。

看護師不足で病棟閉鎖 医療事故の発生も

医師の補助や、患者の食事、入浴などの介助はもとより、治療や手術の現場でチームの要となっている看護師。それほど重要な存在であるにもかかわらず、わが国では看護師が不足し、病院の医療が危機的な状況に追い込まれている。例えば、夜間に救急隊から要請のあった急病の高齢者をベッドの満床を理由に、恒常的に断っていた救命救急センター。「すべての、重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる(救急医療対策事業実施要綱)」ことが原則だが、このケースでは、「看護師が夜間少なく、手のかかる高齢者は受け入れられない」という苦渋の判断が背景にあった。救急だけでない。一般的な病院でも、夜間になると十何人も入院患者をたつた一、二人の看護師で担当するため、ナースコールや人工呼吸器のアラームへの対応が遅れがちだ。その結果、患者が死亡する医療事故につながったと考えられるケースもある。

このほかにも、看護師が足りず一部の入院病棟を閉鎖し

いとうしゅんや●医療ジャーナリスト・写真家 国内外問わずさまざまな医療現場を積極的に取材し、患者中心の医療実現のため活動中。テレビ・雑誌・書籍など、多数のメディアでより良い医療のあり方を追求・発信し続けている。http://shunya-ito.tv/

た病院、訪問看護などのサービスを休止する病院も出ています。看護師不足の影響については、枚挙にいとまがない。

看護師の離職率の高さが大きな問題に

女の子の人気職業として、毎年のようにランキングされる看護師。わが国では毎年、新たに4万5千人の看護師が誕生している。

2008年の就業看護師の数は87万7182人(厚生労働省「2008年保健・衛生行政業務報告」より)で、10年前と比べて約30万人増えている。しかし、それでもなお欧米各国と比較すると、100床あたりの看護師数は日本はアメリカの5分の1、ドイツの2分の1と、際だって低い



実際に聴診器を患者に当てる新人看護師

(OECD Health Data 2006)。とくに昨今は、患者が高齢化、重症化したことから、高度な医療を必要とするケースが増え、それだけ専門的で長期的な看護が必要になりつつある。こうしたことが看護師の負担増につながり、看護師不足の要因になっている。さらに離職率の高さも看護師不足につながっている。日本看護協会によると、全国の看護師の離職率は12.4%(07年度)。新人看護師だけでは、1年以内に離職する割合は9.2%となっている。

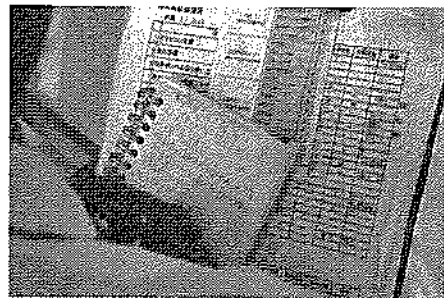
新人看護師の早期離職を重く見た厚労省は、医師の研修医制度のように新人看護師が看護の現場を経験できる臨床研修を設けることを、各医療機関の努力義務とした。

先駆的に新人研修を始めた太田西ノ内病院

この新人研修を3年前から先駆的に始めているところが、福島県郡山市の太田西ノ内病院だ。ここでは「ローテーション研修」として、新人看護師2〜3人が1組となり、内科系病棟、外科系病棟、救急を2週間ほどかけて回る。実際に実習させるときもあれば、

見学だけのときもある。その日実施した内容、感想などは毎日、レポートにまとめて、すでに決まっている配属先の看護師長に提出することになっている。ローテーション研修を始めた理由を、教育担当の看護副部長、岩崎敦子さんは言う。「私たちが新人看護師に対して行った調査の結果、学校を出たばかりの看護師の場合、技術の習得率にかなりの差があることがわかりました。そこで、さまざまな病棟や診療科を経験し、幅広い知識や技術を身につけようという目的で、ローテーション研修の利点はもう一つあるそうだ。それは「自信を失わせない」ということだ。

実は看護師の場合、医師と違って配属先が変わることが多い。当然、これまで経験のない診療科に配属されたときは、新たな看護の知識を入れなければならぬわけだが、そこで起こるのが自信の喪失だ。それが離職につながるケースもある。ところが、ローテーション研修でその科を一度



先輩看護師の指導内容を丁寧にメモする

でも経験していれば、「自信を持って仕事にはげめる」(岩崎さん)という。

同院の研修で新人看護師の指導にあたるのは、各診療科の主任看護師だ。同院でも看護師の人員に余裕があるわけではなく、日々の業務と新人研修が重なる時期は忙しさが増す。それでも各診療科では研修に理解を示している。

「主任看護師たちからは、『研修を終えて、配属先に戻ってきた新人看護師の生き生きとした感想を聞くと、こういう経験は必要と感じた』

「看護師の教育は必要。自分たちの跡を継ぐ看護師を育成するためにも、大変だけれども、いままらなければならぬ」と言ってくれています(岩崎さん)

研修はこの秋で3回目。07年度の離職率は4.3%だったが、昨年度は3.5%と減少した。新人看護師に対するアンケート調査の結果などからも、「確かな手応えを感じている」と岩崎さんは話す。看護師不足対策については、新人研修の他にも、出産などで一度離職した潜在看護師の復職のために24時間体制の院内保育所を設ける病院が出てきたり、職業紹介事業が復職支援セミナーを実施したりと、さまざまな支援策がとられている。

一方、厚労省の経済連携協定に基づく外国人看護師(インドネシア、フィリピン)受け入れでは、今年度の看護師国家試験合格者はたったの3人だった。受験者には、既に母国で看護師のライセンスを持ち、十分な経験を積んだ人もおり、多くの不合格者は「日本語が十分でない」という理由だけだろう。

もちろん、看護師をただ増やせばいいわけではない。行政は医療業界団体の利害調整ばかりでなく、真に未来を見据えた医療システムを構築していくなど、社会全体での取り組みが必要なのである。